

比較家族史学会

会報 比較家族史 80

事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9F
(株)毎日学術フォーラム内 比較家族史学会 ☎:03-6267-4550 FAX:03-6267-4555
Email:maf-jscfh@mynavi.jp 郵便振替 00130-4-25222(名義 比較家族史学会)

2023年 比較家族史学会 第72回 春季研究大会のご案内

【日程】 6月24日(土)・25日(日)

【会場】 関西大学 千里山キャンパス 第三学舎 ソシオ AV ホール

<https://www.kansai-u.ac.jp/ja/about/campus/>

【開催方法】 対面 ただし、状況によって変更可能性あり

【参加費・申込み】 1000円、学部学生は無料(学生証提示必要)、要事前申込み

※ 料金は会場で集めさせていただきます。

・申込み：[専用申込みフォーム](#) (リンクしています)

また、以下のURLからも申込みます。

<https://forms.gle/tA1VZQrdSMPkub7a6>

・参加申込み締め切り：2023年6月17日(日)

【懇親会】 6月24日(土) 18時開始 チルコロ (新関西大学会館南棟4階)

会費 3700円

※ 料金は会場で集めさせていただきます。

※ 要事前申込み

【会場校連絡先】 関西大学 土屋敦研究室 (a_tsuchi アット kansai-u.ac.jp)

※アットを@に置き換えてください。

【プログラム】

6月24日(土)

10:00~10:10 会長挨拶 小池誠 (桃山学院大学)

10:10~10:13 大会運営についてのお知らせ 野辺陽子 (日本女子大学)

10:15~11:57 自由報告 司会 山根真理 (愛知教育大学)

報告1 10:17~10:42

武井基晃 (筑波大学)

「家譜にみる琉球士のライフコースと年齢—長命あるいは早逝にともなう孫による継承を中心に—」

報告 2 10:42～11:07

堀内香里（東北学院大学文学研究科・日本学術振興会特別研究員 PD）

「近世モンゴルにおける家族：18世紀から20世紀初頭のハルハ・モンゴル遊牧社会における養子縁組」

報告 3 11:07～11:32

澤野美智子（立命館大学）

「養子縁組という『支援』：AYA 世代女性のがん経験者の語りから」

報告 4 11:32～11:57

宋円夢（京都大学文学研究科社会学専修博士課程）

「計画出産の緩和期における「優生優育」思想のあり方とその定着—柯橋区を事例に—」

12:00～12:30 総会

12:30～13:15 休憩

13:15～17:35 シンポジウム「家族と病い」

13:15～13:20 企画趣旨説明 田間泰子（大阪公立大学）

第 I 部「近世／近代における家族と病い」 司会 田間泰子（大阪公立大学）

13:20～15:20 第 1 セッション「日本近世の死と病いと家族」

報告 1 13:20～13:45

平井晶子（神戸大学）

「死が身近な社会の中の家族—歴史人口学的アプローチ—」

報告 2 13:45～14:10

中島満大（明治大学）

「徳川時代における感染症と家族—病いが家族形成に与える影響—」

報告 3 14:10～14:35

鈴木則子（奈良女子大学）

「幕末の日記史料にみる『家』と看護」

14:35～14:50 討論 コメンテーター 鬼頭宏（上智大学）

14:50～15:20 ディスカッション

15:20～15:35 休憩

15:35~17:35 第2セッション「家族のいない子どもの病い」

報告1 15:35~16:00

内本充統 (京都橘大学)

「1834年イギリス新救貧法下における児童の施設養育と『病い』」

報告2 16:00~16:25

田中友佳子 (芝浦工業大学)

「香隣園における『病い』と擬似家族—植民地朝鮮末期の孤児問題と養育—」

報告3 16:25~16:50

土屋敦 (関西大学)

「乳児院における母性的養育剥奪論の盛衰—1960~80年代における施設養護の展開から—」

16:50~17:05 討論 コメンテーター 野々村淑子 (九州大学)

17:05~17:35 ディスカッション

6月25日(日)

第II部「病いの特別イシュー」 司会 土屋敦 (関西大学)

10:00~12:05 第1セッション「家族とハンセン病」(韓国語↔日本語 同時通訳)

10:00~10:05 同時通訳についての説明

報告1 10:05~10:30

廣川和花 (専修大学)

「戦前期日本のハンセン病患者と家族—九州療養所『患者身分帳』の分析から—」

報告2 10:30~10:55

蘭由岐子 (追手門学院大学)

「ハンセン病をめぐる〈家族〉の経験—ある^{きょうだい}兄妹の語りから—」

報告3 10:55~11:20

KIM Jae-Hyung (Korea National Open University)

‘Stigma and Discrimination against the Children of People Affected by Hansen’s Disease in South Korea’

11:20~11:35 討論 コメンテーター 慎蒼健 (東京理科大学)

11:35~12:05 ディスカッション

12:05~13:00 休憩

13:00～15:00 第2セッション「家族とコロナ禍／パンデミック」

報告1 13:00～13:25

香西豊子（佛教大学）

「家庭衛生の位相—日本の近代衛生史から考える—」

報告2 13:25～13:50

藤原辰史（京都大学）

「コロナ・パンデミックによる社会の変化と不変化」

報告3 13:50～14:15

緒方桂子（南山大学）

「コロナ禍が浮き彫りにした労働と家族、そして家族ケアの課題—病に強い社会への展望—」

14:15～14:30 討論 コメンテーター 浜田明範（東京大学）

14:30～15:00 ディスカッション

15:00～15:15 休憩

15:15～16:20 総合討論（韓国語↔日本語 同時通訳）

16:20～16:30 閉会挨拶 三成美保（追手門学院大学）

【シンポジウムの趣旨】

田間泰子・土屋敦

人の生をひきうける家族は、疾病によって大きな影響を受ける。その影響は、その疾病を社会がどのように意味づけ、どのように対処するか、そして家族に何を担わせるかということと深く関連する。本企画は、そのように社会的状況と不可分な人々の疾病の経験を「病い」と表現し、比較家族的アプローチによって、「家族と病い」の歴史的諸相をとらえることを目的とする。

本企画は、2部4セッションで構成される。第I部「近世／近代における家族と病い」は近世日本と近代の英国・植民地朝鮮・日本を対象とし、近代化が「家族と病い」にもたらした変容を考える。第II部「病いの特別イシュー」は、慢性の感染症であるハンセン病と急性の感染症（天然痘、COVID-19）を取り上げ、近代化の一つの重要な要素としての国家の役割に留意しつつ、近現代社会における「家族と病い」の多様な課題を考える。

第I部第1セッション「日本近世の死と病いと家族」は、日本の近世社会を対象に、死をも含めて、マクロおよびメゾの視点から歴史人口学、そしてメゾおよびミクロの視点で歴史

学から「家族と病い」にアプローチする。死と疾病がより身近にあった時代に、人々はどのように「家族と病い」、そして死を経験したであろうか。第2セッション「家族のいない子どもの病い」は、第1セッションでの日本近世への理解を踏まえたうえで、近代化という社会変容のなかでの「家族と病い」にアプローチする。近代化が先行した英国、大日本帝国の影響を受けつつ近代化した植民地朝鮮、第二次世界大戦後の日本を取り上げ、「家族のいない子ども」の病いに焦点を当てることにより、近代化と近代家族規範の成立の多様なありようを逆照射的に浮き彫りにする。

第Ⅱ部第1セッション「家族とハンセン病」は、第二次世界大戦前・後の大日本帝国／日本と、朝鮮／植民地朝鮮／韓国を対象とし、国家と家族の配置の変容のなかでの「家族と病い」のありようを分析する。第2セッション「家族とコロナ禍／パンデミック」は、国家と家族の配置の現代的状況への変容と課題を論じる。

以上、近世から近代、そして現代へという近代化前後の歴史軸を設定し、「家族と病い」について討議することで、「家族と病い」、また「病い」というレンズを通して「家族」そのものに対する研究的知見をより深めたい。そして、本シンポジウムが、人々にとって、コロナ禍後の家族と社会のあり方を構想するための一助となることを願う。

【大会運営委員長・委員】 土屋敦（委員長・関西大学）、田間泰子（大阪公立大学）、三品拓人（関西大学）、野辺陽子（日本女子大学）、李璟媛（岡山大学）

委員会報告

【庶務委員会】

(1) 会員への連絡方法について

学会からの連絡は、『比較家族史研究』と会費納入依頼、理事選挙以外は基本的にホームページへの掲載、およびメーリングリストでの送信とさせていただきます。

つきましては、メーリングリストが届いていない方は、急ぎメールアドレスを学会事務局へお届けください。メールアドレスを変更された場合も、学会事務局までご連絡ください。

(2) 会員情報の変更

会員情報に変更がある場合には、学会事務局までご連絡ください。所属・住所などの変更のほかに、65歳以上の会員で特別会員を希望する場合、10年以上継続して会員で終身会員を希望する場合にもご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

(3) 会費納入

6月頃に会費振込用紙を郵送いたします。本学会は、学会費によって維持されています。学会費が未納の会員については、学会費を納入していただきますようお願い申し上げます。会員資格によって学会費が変更されますので、ご確認ください。

(4) 「会報 比較家族史」について

『会報 比較家族史』は、昨年度より印刷を取りやめ、ホームページに掲載するとともにメールにてお知らせしています。

なお、バックナンバーをホームページで公開していますが、**57、58、62、63、65号**が欠号となっています。当該のバックナンバーをお持ちの会員がおりましたら、お手数ですがご一報いただきますようお願いいたします。

【編集委員会】

◇2020-2022年度編集委員会が行ったこと

(1) 掲載内容について（第35号、第36号、第37号）

・掲載論文・研究ノート：2本（1本・1本）、3本（3本・0本）、4本（2本・2本）

・特集：

「高齢化する中日社会における家族の変化と社会的支援—2019年秋季北京研究大会報告より」

「朝鮮社会の儒教化をめぐる—マルチナ・ドイヒラー氏の著作 The Confucian Transformation of Korea: A Study of Society and Ideology より—」

「学会創立40周年記念講演録」、「〈産みの親〉と〈育ての親〉の比較家族史—妊娠・出産と出自をめぐる日独比較」

・書評／文献紹介：4本/0本、5本/3本、3本/5本

(2) 投稿規程と執筆要領について

・投稿原稿の電子化(2020年度。第36号から適用)

・字数に関わる規程の改定(2022年度。第37号から適用)

・投稿の事前申込み制の廃止(2022年度。第37号から適用)

(3) その他

・書評・文献紹介対象書の著作権問題への対応

・字数オーバーの確認体制の整備

・掲載許可の手順の定め

◇比較家族史研究第 38 号への投稿募集等

(1) 投稿論文の募集

『比較家族史研究』第 38 号（2024 年 3 月末刊行予定）の投稿論文を募集いたします。投稿をご希望の方は、学会HP（成果公開）に掲示している投稿規程および執筆要領に従って原稿を作成し、必要事項を記入し、MSWord またはPDF で保存した電子ファイルを、8 月末までに、下記連絡先まで e-mail 添付で送信してください。

(2) 書評・文献紹介対象書の推薦

書評・文献紹介をご希望の方は、7 月末までに、下記連絡先まで著書をお送りください。自薦他薦を問いません。

(3) 投稿等の際しての注意

投稿者は、比較家族史学会会員であることを原則とします。会員でない方は、7 月中に入会申込みをしてください。書評・文献紹介対象書の推薦者についても同様です。

投稿された原稿（写真・図表を含む）は、掲載の可否に関わらず、原則として、返却しません。書評・文献紹介対象書として送付された著書についても返却しないので、予めご承知おきください。

【連絡先】

〒631-8502 奈良県奈良市山陵町 1500 奈良大学文学部文化財学科 床谷文雄研究室
e-mail: tokotanif アット daibutsu.nara-u.ac.jp

※アットを@に置き換えてください。

【企画委員会】

(1) 2023 年度秋季研究大会について

日程: 11 月 26 日(日)

場所: 日本女子大学(野辺陽子・運営委員長)

開催方法: 対面(状況により変更可能性あり)

シンポジウムテーマ: ケアとジェンダーでみるライフコースの変容: アジア・ヨーロッパ6 社会の事例から(仮)

山根真理(愛知教育大学)

(2) 出版予定について

出版:『シリーズ<家族のかたち>を考える 第1巻 <産みの親>と<育ての親>の比較家族史』

法律文化社

出版予定:近刊

理事会議事抄録

2022年10月17日(月)にオンラインで開催された理事会の議事録抄録を掲載します。

1. 庶務委員会

(1) 会員情報の確認

会員情報について報告があった。

(2) 選挙管理委員会の設置

選挙管理委員会の設置について、委員長を牧田勲会員、委員を森本一彦会員と大野啓会員とすることが承認された。それに伴い、選挙権者と被選挙権者の対象者について規約に基づいて確認を行った。

2. 編集委員会

(1) 『比較家族史研究』第37号と第38号

第37号について、特集、投稿、書評・紹介、特集企画などの編集状況の報告があった。第38号については、2022年度秋季大会のシンポジウム登壇者に依頼する予定であることが報告された。

(2) 『比較家族研究』字数制限の遵守の確認方法について

第1回査読時に確認することを決定し、それに伴い査読に関する書類も改訂を行った。

3. 企画委員会

(1) 2022年度比較家族史学会第71回秋季研究大会

2022年10月15日(土)、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所で対面とオンラインによるハイブリット形式にて開催したことが報告された。

(2) 2023年度比較家族史学会第72回春季研究大会

2023年6月24日(土)・25日(日)に日本女子大学にてシンポジウムテーマ「家族と病い」で開催することが報告された。また大会運営委員として李環媛(岡山大学)が加わることが報告された。

※理事会後、会場の都合により、日程はそのまま関西大学での開催となることが、メール審議にて承認された。

(3) 比較家族史学会企画出版の進捗状況

現在、第1巻の編集作業が進行中であることが報告された。また第4巻「家族と暴力」の編集者に税所真也会員が加わることが承認された。

(4) 2023年度比較家族史学会秋季大会について

2023年度の秋季大会は次期企画委員会の担当であるが、次期委員会発足後に秋季大会のシンポジウムのテーマを決めることがスケジュールとして厳しいため、現在の企画委員会で立案することが承認された。

4. 渉外委員会

2024年基礎法学シンポジウムを比較家族史学会が担当する場合、現在の渉外委員会がテーマなどを検討することが報告された。